

氏 名	シユウ 周	ギョウ 暁	コウ 紅
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)		
学 位 記 番 号	工 博 第 2598 号		
学位授与の日付	平 成 18 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当		
研究科・専攻	工 学 研 究 科 建 築 学 専 攻		
学位論文題目	北京市集合住宅の家装工事における居住者の評価に関する研究		

論文調査委員 (主 査)
教 授 宗 本 順 三 教 授 門 内 輝 行 教 授 鉾 井 修 一

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、北京市の集合住宅を対象として家装工事の成立と変遷を調べ、現地調査を行って居住者の家装工事の評価と内装の選好の理由を明らかにした研究である。論文は全6章から構成されている。

第1章では、本研究の背景として、家装工事が中国で盛んになり、施工による構造体や防水層の破損、工事騒音、資源浪費、施工品質の低下が近年続いていることを指摘している。内装に対する多様化する要求を取り入れた家装工事の適切な計画をとおして、居住者が満足する住宅を供給する方法を明らかにすることが、近年、中国において極めて重要な意義を持つことを述べている。この研究では、中国における住宅供給と住宅改築に関する既往の研究における位置づけを行った後に、現地調査および資料に基づいて北京市の集合住宅における家装工事を研究対象として、居住者の家装工事の評価、内装の選好の理由を明らかにすることを目的としている。

第2章では、中央官庁と北京市行政所管部門の一次工事の竣工標準の変遷を分析し、北京市の竣工標準には、厳守期、緩和期、自由化期、『全裝修』提唱期の4つの時期があることを見出している。各期において、引渡時に内装施工済みの『福利裝修』住戸、用水空間の内装施工済みの『初裝修』住戸、内装のない『毛胚房』へと竣工タイプが変化したことを示している。一次工事で施工された内装材や部材などを取替え、除却し、新たな内装工事が多く行われ、竣工タイプ別の家装工事にはあまり大きな差異が無いことを施工内容の実態調査から明らかにしている。

第3章では、中央官庁から北京市行政所管部門まで、横断的に家装工事に関する管理規定の文献資料を調査し、家装工事の管理規定の変遷を分析している。次に、北京市の家装工事を行った居住者を対象とした管理規定の順守の状況を分析し、家装工事の管理規定が十分に順守されなかった原因として、建設部と軽工業部、2つの中央官庁の管轄が並存していることによる法的根拠の混乱、『単位』の管理細則の不備、違反の未確認、無免許業者の施工、違反の処罰体制に不備があることを示している。

第4章では、林の数量化理論の数量化Ⅲ類を用いて、経済、実用を中心にする「経済実用型」、非用水空間の美化と拡張に工夫した「非用水空間調整型」と「非用水空間改造型」、全住戸の快適性の向上と美化を図る「快適美化型」の家装工事の4類型を得ている。つぎに施工内容と実現度・満足度の関係は数量化Ⅱ類を用いた判別分析で、用水空間の床仕上の変更、給排水配管を隠蔽、生活バルコニーのドアの変更が実現度と関係が深く、また給排水配管の隠蔽、用水器具の位置調整が満足度と関係が深いことを明らかにしている。「経済実用型」では実現度と満足度がともに高いことを示している。

第5章では、『起居庁』の内装の選好と選好の理由の実験調査を行って、データマイニングの相関ルールを用いて、選好とその理由の関係を捉えるのに成功している。その結果、「壁仕上の彩度」では「彩りの対比が弱い」との理由で低彩度の壁仕上が選好され、「開口部の面積」では「採光がよい」との理由で大きな開口部が多くの被験者に選好されること、「装飾性壁仕上の設置」、「内装の様式」、「家具と装飾の繁簡」では、「簡素である」との理由で壁に装飾がなく、単純な現代風の家具が選好されることを示している。

第6章では、住宅に対する居住者の要求が中国では急速に膨らむ一方で、新築既存を問わず住宅が多様な内装工事やデザインの要求に対応できていないために、居住者が膨大な労力を使って効率の悪い家装工事が行われて、様々な問題を生み出す結果となっていることを、本論文の研究成果として取りまとめている。先進国と同じように『全裝修』住戸が推奨されているが、開発主体、設計者、施工者ともに未成熟の段階にあるために、居住者の好みや潜在するニーズを充分に取り入れることができる標準化やフレキシブルな住宅の設計方法の確立が極めて重要であることを示して、研究の展望を行っている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、北京市の集合住宅を対象として居住者の家装工事の評価と内装の選好の理由を研究した結果をまとめたものであり、得られた主な成果は次のとおりである。

1. 家装工事が中国で盛んになり、施工による構造体や防水層の破損、工事騒音、資源浪費、施工品質の低下が続いていることを指摘し、家装工事の適切な計画をとおして居住者が満足する住宅を供給する方法を明らかにすることが、近年、中国において極めて重要な意義を持つことを指摘した。
2. 中央官庁と北京市行政所管部門の一次工事の竣工標準の変遷に対応して、『福利裝修』住戸、『初裝修』住戸、『毛胚房』へと竣工タイプが変化したことを示した後に、一次工事で施工された内装材や部材などを取替え、除却、新設の内装工事が行われて、施工内容では各タイプ間に大きな差異がないことを家装工事の実態調査で明らかにした。
3. 家装工事の管理規定の変遷と居住者を対象とした管理規定の順守の状況を分析し、2つの中央官庁の管轄が並存していることによる法的根拠の混乱、『単位』の管理細則の不備、違反の未確認、無免許業者の施工、違反の処罰体制の不備が順守されない原因であることを示した。
4. 施工内容と実現度・満足度の関係では、用水空間の床仕上の変更、給排水配管を隠蔽、生活バルコニーのドアの変更が実現度と関係が深く、また給排水配管の隠蔽、用水器具の位置調整が満足度と関係が深いことを、数量化Ⅱ類を用いた判別分析で示した。
5. 『起居庁』の内装の選好と選好の理由の実験調査を行って、データマイニングの相関ルールを用いて、低彩度の壁仕上、大きな開口部、単純な現代風の家具の選好とその理由の関係を捉えた。

以上、要するに本論文は、北京市の集合住宅を対象として居住者の家装工事の評価と内装の選好の理由を示したもので、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成17年9月28日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。